

# かれんの ひとりごと



## 夏だけではなくて、秋にもお祭りが あるのってなんだいいですね。

今年は仕事で「長崎くんち」へ伺いました。  
いえ「伺いました」と書いてみました。納品の都合  
によりこれを書いている今はまだ、おくんちの前なので  
す。

そもそも長崎くんちは、寛永11年（1634年）に二人  
の遊女、高尾と音羽の兩人が、諏訪神社前に謡曲「小  
舞」を奉納したことが始まりだそうです。そして「お  
くんち」と呼ぶ由来ですが、旧暦の9月9日を良き日と  
して祝う中国の風習が伝わり、9日をくんちと読み、祭  
礼の意味としたとする説が一般的だそうです。すみま  
せん、どちらも公式ページにありましたのを引っ張って  
きました。9日がなまってくんちだったんですね。な  
んともゆるやかな。

わたしがおくんちをはじめてちゃんと見たのは、実は  
大人になってから。2017年にNHKの中継で伺いま  
した。諏訪神社の棧敷席で目の前でみる演し物は迫力が  
あり、お祭りってこんなに感動するのかと驚きました。  
6月1日に「小屋入り」という儀式があり、そこから稽  
古が始まるそうです。何力月も稽古を重ねて挑むお  
祭りって、なかなかいいのではないのでしょうか。  
今年の踊町の稽古の事前取材にはもう伺ってきたので



すが、4年ぶりの開催ということで踊町の皆さん、気合  
が入っていて楽しみで仕方がない！という雰囲気です。  
た。「人生かけてるんで」とおっしゃる方もいて、今年  
も熱いおくんちが見れるんだなあと今からわくわくして  
います。

島原での秋のお祭りといえば「不知火まつり」です  
ね。天草四郎が馬に乗って練り歩くあのパレード。実は  
記憶にあるのは天草四郎よりも馬！いつも歩く道や、車  
で通る道を大きな馬がカポッカポツと歩く姿がなんとも  
不思議で、面白いなあと思っていたんです。島原図書館  
のあたりで、見ていたような記憶があるのですが、人が  
ぎゅうぎゅうに集まって、道端に座ったりして。その非  
日常が楽しいんですね。

ああ、だからお祭りってこの時代まで続いているん  
でしようか。神様に感謝したり、秋の収穫を祈ったりとい  
ろんな意味があるとは思いますが、非日常を味わうこと  
で、日常が頑張れたりしちゃう。必要なことですね。

そしてその非日常のお祭りは、出る側はもちろん見る  
人の熱気も含めて非日常の雰囲気を作り出しているんだ  
ろうなあと思います。

4年ぶりのおくんちも、8年ぶりの不知火まつりパ  
レードも日々の皆さんの活力になっていますように！

